

科目名	地域社会学								
英文科目名	Sociology of Community								
担当教員	古市太郎								
授業形態	講義								
学年	1 年	クラス	2	開講学期	前期	単位区分	選必	単位数	2
ディプロマポリシー	1. 社会問題への洞察力、コミュニケーション能力、社会調査能力、実践力などを活かし、地域課題を解決し地域再生の核となり活躍するために必要な知識や意欲を身に付ける。								
授業の目的・到達目標	<授業のねらい> 「地域社会とは、経済・社会・文化・歴史等においてひとつのまとまりとして意味をもつ場所」であり、そこに関わる人々の様々な活動によりその場所は豊かになります。本授業では、地域協働による地域社会を活性化する事例を通じて「コミュニティ」の重要性を学び、グローバリゼーションという現状を踏まえながら、地域社会を再創造するための方法とヒントを得ることを目指します。 <到達目標> 1. 学生は、地域社会学の現代的意義について説明できる。 2. 学生は、地域資源・課題から自分が住まう地域社会を見る目を身に着ける。 3. 学生は、グローバリゼーションと喫緊の地域社会問題についての知識を習得することができる。								
授業概要	授業概要 1. オリエンテーション----自己紹介、授業計画、履修上の注意 2. 戦後の人口の移動と就業の変容と経済形態の移行 3. 過疎化が向かう先：限界集落について 4. 過密化が向かう先：極点社会について 5. グローバリゼーションと個人化 6. グローバリゼーションと働き方 7. グローバリゼーションと大型店の進出 8. デフレーションとインフレーション 9. グローバリゼーションがもたらす社会：格差社会 10. グローバリゼーションがもたらす社会：ゲーテッドコミュニティ 11. グローバリゼーションがもたらす社会：多文化共生 12. 都市化／外部化の功罪 13. 地域協働／内部化へと向かう地域の動き：東京都文京区・一般社団法人 A の事例 14. 地域協働による地域社会の再創造：東京都中央区・月島地区 西仲通り商店街 15. まとめとレポート課題提出								
学習課題	1～3 回 予習・復習：オリエンテーションでおこなった授業の方向性と他の授業との関連性、および授業の流れを把握し(各 90 分程度)、配布された資料を整理しながら、次の授業の準備にとりかかる(各 90 分程度)。 4～7 回 予習・復習：授業ごとに提示されるキーワードの確認(各 120 分程度)。提出される小課題にむけた予習をおこない、指示されたテーマに関連する文献や参考資料に目を配る(約 120 分程度)。 8～10 回 予習・復習：提示されるキーワードの確認と定着を図る(各 90 分程度)。今後、事例研究が多くなるため、書籍あるいは情報検索を使い、取り上げる地域について下調べをしておく(各 90 分程度)。 11～14 回 予習・復習：これまでの授業で配布された資料を精査し(各 120 分程度)、キーワードを中心にまとめながら、テストに向けた準備にとりかかる(各 120 分程度)。 * 日ごろから、地域社会の事例に関心を持ち、あらゆる媒体を通じて情報を得たり、地域社会の現場へと赴くなどして地域社会そのものにふれてほしい。								
授業方法	授業は講義形式で行うが、適宜、動画やビデオ映像を視聴するなどして、授業の内容の理解を深めていく。また、適宜、授業の進行に応じてグループディスカッションをしていく。*新型コロナウイルスなどの社会状況に合わせてながら授業進行を考える。オンライン授業という形態となる場合もある。その際は適宜対応する。								
成績評価の基準	評価発言など授業への参加状況及び中間テストあるいは課題提出 40%、期末レポート 60%で評価する。 授業冒頭では、リアクションペーパーを使用しながら授業内容を振り返り、また評価に関してはフィードバックして、授業内で講評する。オンライン授業という形態になった場合、成績評価やフィードバックの仕方については適宜説明する。								
教科書	適宜紹介する。								

参考書	適宜紹介する予定。 宮本和彦編著,2020,『変動する社会と生活』 八千代出版
実務経験のある教員による授業	
実務経験の内容	-
実務経験の当該科目への活用	-